

員の購読料は組合費の中に含む  
組合費の中にも含む

### 組織強化・拡大モデル分会交流会

# 組合員一丸の拡大行動を

## II 「分会活動」の強化も大切に II



19人が参加し意思統一をはかった

### 19人の参加で 有意義な交流

地方本部は、七月二〇日に盛岡市・國労会館で「組織強化・拡大モデル分会交流会」を開催。青森運輸区・青森両支部代表者と青森運輸区・青森運転・八戸運輸・盛岡運輸区・一関運輸の五モデル分会の代表者及び組織強化・拡大対策委員一九人の参加者で開催した。

JR東日本会社が東労組内の組織混戦、革マル問題等で、労務政策の変更をせざるを得ない状況を認識し、その具体化として、昨年の配属差別事件の一括和解や昇進差別の和解に向けた動き等に現れている。今月のチャンスを最大限活かし、七月に青森駅での東労組からの組織拡大を含めて、厳しい中にもっとこの間五人の拡大を勝ち取ったことに自信を持ち、この流れを加速させ、要求の多数派から組織の多数派を目指して全組合員が一丸となり、組織拡大に取り組むことを確認できた有意義な交流会となつた。

発行所 国鐵労働組合  
盛岡地方本部  
発行者 奈良岡林克也  
編集者 宏小林  
メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp  
2005.8.10 第1364号



### 当面の主な日程

▽8月18日 第11回地本執行・競争委員会	▽8月27日 地本運転協議会定期委員会
▽8月20日(東京) 相互援護会第1回理事会	▽8月30日(熱海) 第73回定期全国大会
▽8月20日(東京) 地本会計監査	▽9月8日(9日) 地本会計監査

第8回東日本本部組織拡大会議

会議

**期間率減額を保障**  
**地本互助会だより**  
加入資格、手続き、募集期間、掛金、給付発生、期間率調査期間等、具体的な内容は「一ヶ月期加入と増口」の国労盛岡互助会特集号(八月一日付)を参照してください。

## 三浦勝弘さん迎え

### 青森支部・同駅連

# 三浦勝弘さん迎え



三浦さん(右)へ奈良岡委員長から国労手帳を手渡す  
青森支部・同駅連合分會は、六月二十五日付けで東労組を脱退し国労に加入した  
三浦勝弘さん(青森駅)の「国労加入歓迎会」(30人参加)を七月六日に開催した。

最初に、石井青森駅連合分會長が、一年前、三浦さんは、やむを得ず脱退となつた。気持ち新たに、菊池要悦(盛岡駅連合分會)、天間正幸(北上電気分會)、小林良宏(盛岡施設分會)、野坂均(青森運輸区分會)、笹山賀庸(八戸工務分會)、青森支部の幹事長が、前田智章(盛岡支部執行委員)、高橋伸二(北上施設分會)、小野寺俊彦(北上駅連合分會委員長)、小野寺邦夫(一関運輸分會)らの出席によって、菊池要悦(盛岡駅連合分會)、天間正幸(北上電気分會)、小林良宏(盛岡施設分會)、野坂均(青森運輸区分會委員長)、高橋清光(青森運転分會)が、三浦勝弘さん(青森駅)へ奈良岡委員長から国労手帳を手渡しました。

奈良岡委員長は、「採用差別事件の闘いは、九月一五日に一部闘争団が鉄道建設設置整備支援機構(旧鉄建公団)を相手に訴えている裁判の判断が出现在する。その内容を国労としても注視している。第一回定期全国大会の成功を勝ち取り、採用差別事件の早期解決の流れを作ろう。昇進と述べ、(1)組織強化・拡大の

に国労に戻つてくることになり、逆に激励される。悩みを抱えていた人たちに声をかけていく」と三浦さんを歓迎し、拡大に向けて決意を述べた。

奈良岡支部委員長は、「拡大の歓迎は何回あっても良い。三浦さんの勇気に感謝する。脱退していく人が多ければならない」と歓迎と激励の挨拶。次いで、来賓の佐藤東日本本部委員長、菊池地方本部副委員長、高嶋東労組から加入は大ニユース、滴の一滴から大きな流れを感じる。会社の対応にも変化が見られ、職場の雰囲気も変わっている。昇進差別事件の和解について、JR職場の運動の積み上げによる、拡大に向かう環境が整いつつある実態が報告された。一方で、

三浦勝弘さんは、「この様な歓迎会を開催していただきありがとうございます。六年ぶりに、奈良岡委員長は、自分がどうぞぎます。六年前に国労を脱退したときは、自分自身情けなく悩んでいたし、国労を嫌いなわけではなく、悪いと思つてきました。それを打ち消すために仕事に励んだ。国労に入り安心した気持ちになつた。一度脱退しなった。一つひとつ頑張っていく」と決意を述べた。その後、石井

前田が国労手帳を手渡し懇親会に入り、奈良岡委員長の團結がんばり一唱で申締め、東労組からの加入に重大な意義を確認し終了した。

青森支部情報から抜粋

雨明け宣言もやつと出され、土用あけの暑さが厳しい季節になつて来たい

輪線、山田線の一部区間ではまだ冷

ようと思える。花



交流会は、小林副委員長の開会挨拶で始められ、地方本部執行委員長と座長就任を兼ねて余良岡委員長は、「採用差別事件の闘いは、九月一五日に一部闘争団が鉄道建設設置整備支援機構(旧鉄建公団)を相手に訴えている裁判の判断が作出される。その内容を国労としても注視している。第一回定期全国大会の成功を勝ち取り、採用差別事件の早期解決の流れを作ろう。昇進

差別事件の和解については、現在中労委の場で調査が続いている。昇進差別事件の和解を勝ち取り、労使正常化の闘いを前進させよう。組織拡大については、この間五人の拡大を勝ち取ったことに自信と確信を持つことが必要だ。厳しい中であつても拡大ができる。今後は平成採用者の拡大を勝ち取れるよう、さらなる各級機関の取り組みをお願いする」と情勢を含めて挨拶。

続いて菊池組織部長は「モデル分会の経験交流・実態点検の報告の中からお互いの交流を深め、多くの分会の率先垂範となる会議としている」と述べた。代議員が決定した。全国大会は八月三〇日・三十一日、東日本本部大会は九月一六日・一七日に開催される。

本部大会は五年度全国・東日本大会の代議員選挙が七月二〇日に施行され別記通り代議員が決定した。

代議員は奈良岡勝(青森支部副委員長)、佐々木正弘(一関施設分會前委員長)、高橋伸二(北上施設分會委員長)、小野寺俊彦(北上駅連合分會委員長)、齋藤庄司(盛岡運輸区分會委員長)、

小野寺邦夫(一関運輸分會委員長)、

野坂均(青森運輸区分會委員長)、高橋清光(青森運転分會委員長)、小野寺邦夫(一関運輸分會委員長)、

野坂均(青森運輸区分會委員長)、高橋清光(青森運転分會委員長)、小野寺邦夫(一関運輸分會委員長)、

野坂均(青森運輸区分會委員長)、高橋清光(青森運転分會委員長)、小野寺邦夫(一関運輸分會委員長)、

野坂均(青森運輸区分會委員長)、高橋清光(青森運転分會委員長)、小野寺邦夫(一関運輸分會委員長)、

